

総合病院社会保険徳山中央病院

〒745-8522 周南市孝田町1-1
TEL：0834-28-4411 FAX：0834-29-2579
<http://www.tokuchuhp.jp/>
連絡先：f-numa@shaho-tokuyama.tokuyama



病床数

494 床（うち、産婦人科：40 床）

1日あたり平均外来患者数

1,458 人（うち、産婦人科：90 人）

産婦人科医師数

常勤専門医：7 人、専攻医：1 人 初期研修医：2 人

年間分娩数

533 件（うち、帝王切開：161 例）

年間婦人科手術件数

631 件（うち、開腹手術：137 件、内視鏡手術：174 件、経腔子宮全摘術：103 件、
胎児鏡手術：30 件、円錐切除：81 件）

年間体外受精件数

46 件

指導責任医師

沼 文隆（主任部長）、中田 雅彦（副主任部長、周産期母子医療センター長）

特徴

当院の特色は、“minimal invasive surgery”つまり「低侵襲の手術療法」と「先進的な医療」を行っていることです。婦人科悪性腫瘍では、子宮頸癌に対する広汎性子宮全摘出術の合併症（排尿排便障害・リンパ浮腫等）の軽減を極力図っており、さらに子宮を温存する広汎性子宮頸部摘出術を行っています。すでに妊娠分娩例もありますが、最終的な目標である健常児を獲得するためには婦人科腫瘍学、生殖内分泌学及び周産期医学全般に亘る集学的治療が必要であり、まさに産婦人科医療の究極ともいえる治療のひとつと考えています。

良性腫瘍では、腹腔鏡手術・子宮鏡下手術・腔式子宮全摘出術を積極的に行い、より「侵襲の少ない」治療に努めています。不妊内分泌分野では、凍結胚移植を含めた生殖補助医療（ART）全般を推進し、卵管鏡下卵管形成も行っています。周産期分野では、平成22年11月の周産期母子医療センターの本格的な稼働と共に、西日本の胎児診断治療の拠点として先進的な医療に取り組んでいます。中でも、一絨毛膜性双胎に合併した双胎間輸血症候群（TTTS）の胎児鏡治療は、西日本では当院のみが施行しています。